

上智大学グリークラブ OB会ニュース

2011 年度 第 3 号

2012 年 2 月 18 日発行



北村協一メモリアルコンサート＜MISSION＞2012 年 1 月 15 日（日）すみだトリフォニー大ホール

会 長 挨 拶

佐野 鑛治（昭和 39 年卒）

2011 年は、震災・津波・原発災害、歴史的円高と日本社会が、政治の混乱もあいまって、過去に経験したことのない厳しい試練の年でありました。個人的には、自分も人生の最終段階に入ったのか、年齢的にその時期なのか、辛い別れを幾度か経験した年でありました。

2012 年を迎え、1 月 15 日に、記念すべきミッション系四大学 OB 合唱団による合同演奏会（北村協一メモリアルコンサート＜MISSION＞）が実施されました。合同演奏 A・デュオーバ作曲 荘厳ミサ全曲を歌い終わった瞬間の充実感と静謐な感動は、私の生涯の宝になると思います。此の演奏会実現のため永年努力して下さった歴代役員諸氏。マネジメント面では池田宥三氏

（S39 卒 B1）・中尾照夫氏（S44 卒 T1）上田哲也氏（S47 卒 B1）。音楽面では、団内指揮の篠崎新一氏（H5 卒 B1）、合唱団代表泉 洋氏（S40 卒 T1）を始め団の運営委員各位、個人のビデオを携え録音し練習ビデオで、自習環境を整えて下さった OB ライフ委員会委員長の田中立夫氏（S35 卒 B2）、そして新納名誉会長（S22 卒 B1）が不自由なお身体を押して練習に参加し、オンステして下さったこと、目の不自由な飯島 誠氏（S48 卒 B1）が夫婦二人三脚で練習を乗り越えられたこと等、役員諸氏の情熱と参加者各位の協一先生から教えられた男声合唱への熱い想いがあって実現できた演奏会であったと思います。唯、感謝です。ありがとうございました。

これからのOB会諸活動は、2013年がグリークラブ設立60周年、現役グリーの第65回記念定期演奏会、そして上智大学創立100周年の年に当たることから、それらの課題を踏まえ諸活動の企画・準備が求められています。大事な転換期を迎えていると云えます。四大学合同の練習の折、



山梨県北杜市八ヶ岳南麓 雪下の我が家

また、ステージで感じたのは、他の団体の声の若さ、エネルギーでした。OB合唱団に一人でも多くの若手の参加を求めたいものです。そのためにも、OB会の執行を若い世代に担って頂き、新しい発想で若い世代の参加を実現していただきたいと思います。

2012年は、今迄以上に慎重な準備と体制作りが求められていることから、会員各位のご協力とご理解・ご支援が是非とも必要です。2012年が現役共々グリークラブの更なる発展の年と成りますようお願いして止みません。

寒い冬です。東北地方の豪雪は気掛かりです。厳しい寒さであるがゆえに、暖かい春が待たれます。

北村協一メモリアルコンサートMISSION

関学・上智・同志社・立教OB合唱団合同演奏会 大好評！！

中尾 照夫（昭和44年卒）

2013年1月15日（日）すみだトリフォニーホール大ホールで開催され、盛況裡に終了いたしました。当日は厳しい寒さにもかかわらず満席に近い聴衆で、男声合唱の醍醐味を満喫いただけたものと確信しています。オンステされたメンバーの皆様お疲れ様でした。会場におみえいただいたOB諸兄ならびにご関係の皆様ありがとうございました。

北村先生のご遺言を、4大学合同で実現したいとして2年半前からマネージャーが集まり準備してまいりました。昨年1月22日（土）の聖イグナチオ教会主聖堂での合同演奏会を一里塚としてステップを踏んだおかげで、我々には慣れない4校合同という演奏会準備も大きな問題もなく実現に漕ぎつけました。メンバーならびにご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

オンステは上智単独ステージ38名、合同演奏144名で、関西から近藤 恭先輩（昭和39年卒）、堀 清君（昭和53年卒）にも参加いただきました。今回は関西地区での太田先生練習も組まれ、関学OBは関西から20名以上が参加されました。

ピタウ大司教にもおみえいただき、大変喜んでおられました。先日大司教より4大学の参加メンバーにお礼状をいただきました。別掲いたします。演奏会後の各方面の評判もよく、4校が特色を出せたい演奏会になったと自負しています。何より北村先生とのお約束を果たせたという

安堵感が強い一方、太田先生の記事にもありますように、上智のアンサンブルがよかったというお話を少なからずいただきました。録音を聞きなおしてみますと一部を除いてよくハモっていますし、ハーモニーもやわらかくタダタケにはもってこいのトーンとなっていました。他校OBの評にもありましたが、「上智の音がわかった。多田さんがこのトーンを念頭において『北陸にて』や『雪国にて』を書かれたんだ」というように、上智の音が鳴ったステージになったと思います。かつて北村先生が「上智は人数は少なくてもいい音がする」と言っていた原点に、遅ればせながら復帰しつつあるように思われます。先輩他校に決して引けをとらない演奏ができ、お聴きいただけた皆さんにもしっかりと認識いただけた演奏会になったと思います。

我々は現役時代2校の交歓演奏会は経験してきましたが、4校合同のマネージメントは初めてでした。属人的な側面はあるものの関学のマネージメントのとり方は大変に緻密で学ぶところ大でした。レセプションの最中に各校マネージャーに挨拶しながら今後のジョイントも視野にいれて、さらなる協力関係を持っていくことを約束いたしました。

スタート当初は先輩3校の胸を借りるつもりでしたが、皆様のご努力とご協力のおかげで3校に肩をならべられる自信を持てた演奏会であったと思います。

太田先生が言われるとおり「上智大学グリークラブOB合唱団らしさ」を求めて努力しました。大きな手がかりを得た演奏会でした。お疲れ様でした。ありがとうございました。

演奏会をさかのぼること20日、山本修司君（昭和60年卒）が昨年12月27日毎日新聞夕刊「憂楽帳」というコラムに「MISSION」と題して執筆いただき、この記事を見たと言って、事務局へ問い合わせていただいた方も多く集客に一役かっていたいただきました。感謝。

当日オンステ予定であった小林洋三さん（昭和37年卒）は、体調を崩されてオンステはかなわなかったものの、会場へ元気な顔をおみせいただきました。暖かくなったらまた一緒に歌いましょうと言われておりましたが、その3日後に入院され1月31日に天に召されました。演奏会から2週間後のことでした。痛惜の極みです。ご冥福をお祈りします。

OB合唱団便り

高橋 直樹（昭和44年卒）

OB会ニュースの『合唱団便り』の原稿依頼がきた。ネタは…？、困った。締切が近づく…、ウーン…

OB合唱団の活動を含めこの3年ほどの小生の生活の中で何とはなしに何ごとかを感じた事柄を、他者の言葉を借りて便りにというアイディアらしきもの一つ浮上、……仕事柄、著作権法違反か、などという余計なことが頭の片隅に…、エーイ！！

ちなみに小生、この拙文がOB諸兄のお目をよごす頃には、勤め人（担当業務は法務）を卒業予定です。

『このごろ、心をヨギルもの』

①死とは時を告げる鐘のようなもの、時が来ていないかぎりはいくら打っても鳴りはしない。

人は、たやすく死ぬし、なかなか死なない。死んでもおかしくない者が生き、死ぬはずのない者が死ぬ。

その時が来るまで、死にたくても死ねない。時が来てしまえば、死にたくなくても死ぬ。

又、死とは旧い友人、生まれたときからの友、それが思い立って訪ねてくる。

②神は人間の賢さに限度を決めたが、愚かさには限度を決めなかった。

③服あふれ靴あふれ籠にパンあふれ足を知らざる国となり果つ。

④欲深き人の心と降る雪は積もるにつれて道を失う。

⑤便利とは人間がサボるということ、豊かと便利のかん違い。

⑥答えが正しいかどうかなど、正しく考えられることに比べれば取るに足らぬことです。

⑦いったん作られた決まり事が、無数の小さな決まり事を生み出してゆく。さらにそれらが、互いに矛盾する決まり事を生み、その矛盾を解消するため、また新たな決まり事が生まれる。

⑧私はタバコは吸わないから禁煙化は嬉しいことなんだけど、それにしても喫煙者に対する社会の対応は、だんだん過激になっているような気がする。まるで禁酒法時代のアメリカだ。

⑨ほどよく老いたが おき火は残る、おこし直すにゃ ちょいと肩の荷重い

⑩出迎え三步、見送り七歩

⑪「丞相、こちらでしたか」姜維^{きやうい}が瓜を持って現れた。「泉で冷やしておりました。丞相は、食事をあまり召し上がられない、と聞きましたので。これならば、少しぐらいなら」「そうか。切って貰おうか」孔明は、岩に腰を降ろした。「冷えていて、うまいな」もうひと切れ、口に入れた。「丞相。この瓜は、兵のひとりが丞相に食べていただきたいという思いをこめて、育てたものです。毎日、ひとつずつお届けしてよろしいでしょうか」「ありがたいな、それは。兵の名はあえて訊くまい。私が喜んでいただくとおまえから伝えてくれ」

⑫この世には、心を動かすものがさりげなく存在していたりする、と花が教えてくれる。

⑬始まりと呼ばれるものは、しばしば終末であり、終止符を打つということは、新たな始まりである。終着点は、出発点である。「終わりは始まり」なのだ。これから始まるんだ。胎動は始まっている。

⑭顔の悪いのと声の悪いのはあかん。その人の精神状態が全部顔に出る、そして声に出るもんや。顔が良くても声の悪い奴はあかん。

⑮書きとどめよ！議論したことを風の中に吹き飛ばしてはならぬ。

⑯言葉を用いたとしても、我々には語ることでできない「なにものか」が、あとに残り残されてしまう。

⑰ことばとは儂^{はかな}いものである。その儂さの上に儂さを積みあげても儂さの本質は変らない。故に壊れやすい言葉を守ろうとするには、相当な力が要る。人の努力の大半はそこにある。人の強さもそこから生じる。

⑱現代はあまりにもツールが多すぎて、根本的な対話能力がおざなりにされている。最も大事なのは、「あなたの伝えたいことはなんですか？」ということ。どんな言葉を駆使しても、そのあなたの思いは一部しか伝わらない。

⑲棋譜は盤上に石を並べるだけで対局の息遣いを感じさせる。偉大な音楽もまた、楽譜が自然と語りだすにちがいない。

⑳言葉で表現できなくなったとき、「音楽」がはじまる。

—終—

敢えて出处は記しません。練習後のチョット一杯のお肴に……

「上智大学グリークラブOB合唱団らしさ」を求めて

太田 務

先日のすみだトリフォニー・ホールで行われた「MISSION」での、リハーサルから本番に於ける上智大学グリークラブOB合唱団のアンサンブルを聴かせて頂き、嬉しい驚きを感じました。皆さんの合唱と故・北村協一先生に対する篤い想いもそうですが、バランス感覚の良くなったアンサンブルと、何よりも「上智大学グリークラブOB合唱団」としての誇りを大いに認識させていただいたからです。常設の合唱団として運営され始め、システムティックな活動がまだ2年半と歴史がスタートしたばかりですが、オーガナイズされた運営スタッフと、メンバーの方々の意気込み満ち溢れたこれまでの活動の努力の積み重ねを感じました。それ故私は今、この合唱団の常任指揮者という責任ある技術指導者の立場から、これからの私自身に対する指南の意味もこめて、この合唱団のあるべき姿、そしてその姿を求める為に心に留めておかねばならない事を考えなくてはいけないと思うようになりました。

男声アンサンブルとしての上智大学グリークラブOB合唱団の求めるべきものは何でしょうか。勿論技術的なレベル・アップや音楽を支える精神面の鍛錬も必要です。しかし、それと並行して大事なのは、上智大学グリークラブOB合唱団にしか出せないハーモニーを追及する事だと思います。即ち、合唱を通じ「上智大学グリークラブOB合唱団らしさ」を求め、それを求めつつ合唱をする事でしょう。

それでは「上智大学グリークラブOB合唱団らしさ」とは一体何でしょうか。それは、上智大学の土壌にしか育たない「何か」だと思います。そしてそれが、誰が演奏を聴いても、「ああ、あれは上智グリーOBだ」と言わしめる、上智グリーOB独特の楽音を創り上げるのです。そこで大切なのは、「独特＝やりたい放題」ではなく、癖を取り除き基本に徹する事です。いらないものを取り除いて行くと、これ以上取り除けない「純粋なもの」が残ってくるはずです。その「純粋なもの」が「個性」となって音楽を構成する要素を味付けし、絡み合い楽音として滲み出してくるのです。

皆さんの中にある、この「純粋なもの」とは何でしょう。私は、それは上智大学の建学の精神“Men and Women for Others, with Others”(「他者のために、他者とともに生きる…。」)の哲学の内にあると(あるべきと)思います。人格形成の最終期と思われる、多感な学生生活を過ごした空間を包み込む大学とその建学の精神は、在学中にそれを意識していなくても心の中に確実に蓄積し、そうして皆大学を巣立って行くのです。そこに他大学と異なる、上智大学のOBらしさが表れるのです。それがメンバー一人ひとりの個性と共にコアとなり、純粋な結晶となるのです。

それは一朝一夕に形作られるものではないでしょう。まるで鉱物が結晶化していくように目に見えないものかもしれません。しかし、それを大切に育ててゆく覚悟の上の常設OB合唱団設立です。どうぞ自信を持って下さい。努力を継続しましょう。先日のMISSIONでの皆さんが、明るい未来を証明しています。今を確実に活動し未来につなげて下さい。かくいう私にも次の指導者にバトンを託す時がいずれ参ります。そしてその時、新しい指導者の手により、更に飛躍できる力が備わっているようにこの合唱団のレベルを上げ、保つことが私に与えられた任務である

と考えています。そしてこの団の歴史が、紆余曲折しても「上智大学グリークラブOB合唱団らしさ」を常に求め、確実に一步一步進んで行く、終わりのない歴史でありますよう、心から祈るのです。

あなたの年次に彩りを

60年史編纂委員長 中島 祥一（昭和40年卒）

「60年史」の作業は今年から平成期の活動採録に入りました。できれば秋ごろまでに執筆に区切りをつけ、各種名簿や年表の作成、見出し、写真の割り付けなど編集作業に入りたいと考えています。

これまでの執筆にあたっては「回想」「とびっく」「その年の出来事」などを織り交ぜ、できるだけ活動の羅列にならないよう苦心してきました。ざっと見たところ外山先生の時代から北村先生の中期ころまでは、それなりに思い出話が集まって「読める部史」に近づきつつありますが、時代が若くなるにつれ（特に平成に入ってから）定演パンフにある年間の活動を並べるだけの平板な内容になってしまっています。

- ・夏の合宿の「洗礼式」はいつからなくなってしまったのでしょうか。
- ・追い出しコンパで先輩を酔いつぶす行事はどの年次から始まったのですか？
- ・春の楽しみだった合コンや上南戦、演奏旅行の思い出はありませんか。

部の歴史をあなたの年次のエピソードで彩るチャンスです。どうか脳みそを絞って、青春の記憶を文章にしてください。内容も字数も自由です。

連絡先：〒180-0022 東京都武蔵野市境2-17-2 中島祥一
y.nakajin@y6.dion.ne.jp

会計からのお願い

会計マネージャー 鈴木 飛鳥（平成7年卒）

会計から年会費納入の状況をご連絡いたします。入金は昨年度と同じようなペースでご協力を頂いております。現役支援を中心としたOB会活動にご理解いただき、改めてお礼申し上げます。

引き続き多くのOBの皆さんにご協力をお願い致しますので、お振込みの際は、下記口座までお願いします。なお、郵便振替の場合は、同封の郵便振替用紙をご利用ください。

【お振込み先】

（１）郵便振替

加入者名：上智大学グリークラブOB会

口座番号：00110-8-708952

銀 行：ゆうちょ銀行
支 店：〇一九（ゼロイチキュウ）店（店番：〇 1 9）
種 類：当座預金
口座名：上智大学グリークラブOB会
口座番号：〇 7 0 8 9 5 2

（2）銀行振込

銀 行：三井住友銀行
支 店：東京中央支店（店番：〇 1 5）
種 類：普通預金
口座名：上智グリークラブOB会
口座番号：3 3 2 7 2 8 2

現役からの活動報告

上智大学グリークラブ部長 三浦周平（経営3年）

OB 会の皆様こんにちは、三浦です。新年を迎えて1 カ月が過ぎましたがいかがお過ごしでしょうか。現役はレポートやテスト勉強に追われるうちに1 月があっという間に過ぎてしまいました。今回は10 月～1 月を振り返ってみたいと思います。

第3回ソフィア会全国大会 2011 山梨大会

10 月 22 日山梨県で行われたソフィア会全国大会にてミニコンサートを行いました。ホテルの一角にあるチャペルの中で定演の曲目から何曲かピックアップして演奏し、大盛況の中に終了することができました。ソフィア会から受けた依頼である以上しっかりした演奏をお届けするとの思いで臨みましたが、演奏する喜びやその他（こっちの方が大きいかもしれません）の喜びの方が勝っていたと思います。個人的には部員との列車遠征は小旅行をしている気分になりました。余談ですが、今回の演奏を聞いていた教授が授業で「グリーの演奏はうまかった」ということを言っていたそうです。本当にうまかったのかどうか、定かではありませんが、今回のイベントで一部の学科におけるグリーの知名度は着実に上がりました。

今回のイベントは、和泉ソフィア会会長の御提案を大会事務局の山梨ソフィア会が受け実現しました。また、当日は山梨在住の佐野 OB 会会長がマネージャー役を果たして下さり、指揮をしてくださった篠崎、東海林両先輩をはじめ多くの方のご協力を得ることにより当日の演奏がスムーズに行えました。この場を借りてお礼申し上げます。

定期演奏会

12 月 10 日武蔵小金井市民ホールにて第 63 回定期演奏会を無事開催することができました。ステージ構成については前回ご紹介したので割愛しますが、全体を通して良い演奏を行うことができました。例年と異なる点を挙げるとするならば、2 列で歌えるステージを持てたことでしょうか。少なくとも私がグリーに参加したここ 3 年間の演奏会で段を使って演奏することはなく、また考えることができませんでした。それが今回 2 列で歌うことになり個人的には「いつのまにやら」という気分です。また、4 ステにおいて現役部員の編曲による「Beatles メドレー」の演

奏を行った点も今年の特徴です。約半年という短期間での練習でしたが、演奏には他の曲にはない趣向をいくつか取り入れ、幸い好評でした。編曲を担当した部員は演奏のたびごとに客席の反応を気にしていましたが、最後にお客様から高い評価を得ることができ、良かったと思います。

運営面では下級生が主体となって動くことができたことなど、今後につながる成果を残すことができたと思います。しかしそのような中でも「集客力」という課題が残りました。こちらは来年に向けて新体制のグリーが解決に向けて努力することでしょう。まだまだOBの皆さまのご協力無しには成立しえない定演ですが、年を重ねるごとに自分たちのみでハンドリングできる部分が増えてきました。今後もOBの皆さまのノウハウを学び、自分たちで考えることを継続することで自立できたらと思います。

最後に…

2011 年度も OB の皆さまの温かいご支援、ご叱責をいただくことで無事に終えることができました。改めてお礼申し上げます。大学生は普段他人からの叱責を受けることがほとんどなく自分に甘くなりがちです。そのような状況下において、現役のダメな部分はダメと指摘してくださるOBの皆さまの存在はとてもありがたいものと考えております。今後私はヒラ部員として関わりますが次代のグリーを担う部員にも、今までと同じ様に関わっていただけたらと思います。その中で現役とOBが良好な関係を築き、相互に発展することができたら幸いです。

今後のグリーの発展を願って私の最後の報告を終えたいと思います。拙い文章でしたが、最後までお付き合いいただきありがとうございました。

【訃報】

小林洋三氏（S37 卒 OB 合唱団運営委員 バリトン）は間質性肺炎のため 1 月 31 日急逝 2 月 3 日にお通夜、4 日に告別式が執り行われました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

さらば 洋三君！

1 月 31 日午前 9 時 20 分、昭和 37 年卒の小林洋三君が逝去されました。
昨年秋口から空咳に悩まされ息苦しくて発声が上手く出来ないと身体の不調を訴え 11 月上旬から約 1 ケ月三井記念病院に入院されました。（検査の結果）間質性肺炎と診断されましたが、その後治療の甲斐あって空咳と息苦しさは治まり 12 月初旬には無事退院、回復に向かっておられました。

年が明けて 1 月 15 日の北村協一メモリアルコンサート“MISSION”には当初から彼も出演するつもりで練習には熱心に参加し楽しみにその日を待っておりました。残念ながら病がそれを阻み出演は取り止め、聴く側へと廻り病み上がりの身体を会場へと運んでくれました。当日は元気な様子で出演者、来場者に会い、春からのOB合唱団への復帰を楽しみにしている旨話しておられました。

ところがその日から僅か 3 日後になって急遽再入院されご家族の厚い看護にも拘わらず帰らぬ人となりました。

2月3日の通夜、4日の告別式はご遺族並びに多くの知人、友人に見送られキリスト教式棺前
祈祷会順序に則り厳粛に執り行われました。

祭壇でお顔を拝見し、ふくよかな頬に薄っすらと紅を添えた洋三君の天に召される姿は安らか
で歌の好きな彼が「dona nobis pacem」と歌っているかのようでした。

出棺に先立ち参列した合唱団のメンバー30数名による「校歌」、「遥かな友に」の合唱を添え
て永久の別れを告げました。

本年5月の金祝を迎える直前にわれ等三七会の朋を一人亡くしたことは残念極まりない限りで
す。ご冥福をお祈りいたします。

合掌

平成24年2月4日 告別式の日にて 三七会一同

<MISSION>ギャラリー



ホールロビーで発声練習



本番前の控え室



レセプションにて



素敵な笑顔の皆さん

■ 4 大学単独ステージ（演奏順）



新月会（関西学院グリークラブOB） 「Spirituals」



上智大学グリークラブOB合唱団 「多田武彦作品集」



同志社グリークラブOB合唱団 「水のいのち」 から



立教大学グリークラブOB男声合唱団 「Nänie(哀悼歌)Op. 82」



MONS. GIUSEPPE PITTAU, S.J.

上智大学グリークラブ OB 合唱団の皆さま

このたび、北村協一メモリアルコンサートにお招きいただき、心から感謝いたします。見事ご遺言の MISSION を果たされたこと、北村先生がどんなにか天国でお喜びのことと思います。心から、お祝い申し上げます。

先ず第一に申し上げたいのは、音楽ばかりでなく、みなさまのラテン語の発音の美しさで、私も皆さまと心を一致させ、美的な感覚ばかりでなく、神学的な深さも感じることができました。しかも、これは、プロテスタントと、カトリックの大学が心をひとつにして成し遂げられた、エキュメニカルな MISSION の達成であり、ほんとうに、演奏の美しさは言うまでも無く、その信仰の面でも深い一致を感じることができまして、喜びと感謝に満たされました。

これからも、人生を歩まれるなかで、この美と神学的深さを十分に理解され、みなさまの演奏を通じて、多くの方々に、生きる土台と指針を与えてください。これこそ、まさに、MISSION の名にふさわしいものと思います。

ひとりひとりの皆さまに、心から、‘おめでとう’と、‘ありがとう’の言葉をお伝えしたいとおもいます。

感謝と祈りのうちに

2012 年 1 月 18 日

ヨゼフ ピタウ

+ Joseph Pittau, S.J.

音楽帳



MISSION

日本の合唱界、とりわけ男声合唱に大きな足跡を残した指揮者の北村協一さんは、2006年3月に亡くなる直前、関西学院、上智、同志社、立教の各大学グリークラブOBを呼び寄せて「ミッション系の大学は協力する関係であってほしい」という話をした。

退院がかなえば、この4大学による「荘厳ミサ」(A・デュオーバ作曲)の合同演奏の指揮を望んでいたことから、協力して全曲演奏することが北村さんによる「遺言」と位置づけられ、各OB幹部が奔走。ようやく来年1月15日、メモリアルコンサートが実現する。名付けて「MISSION」。ミッション系に「使命」の意味を込めた。時間がかかったのは、関東と関西に分かれていることもあるが、この曲の難しさにある。極めて音域が広く、全曲で40分もかかる。このため全曲演奏は日本では3回しかない。今回は、20代から80代の約180人が各地からステージに結集し、ハーモニーを醸す。折しも米国の人気映画が封切られたが、心と力を合わせれば、ミッションはポッシブルだ。

【山本修司】

2011.12.27

MISSION報告記事より、(上)ピタウ大司教からのお礼状 (下)毎日新聞夕刊コラム



歌とお酒があればいつだってごきげん

広報からのお知らせ

当ニュースのバックナンバーはカラー版でホームページにも掲載されております。また、会員専用掲示板を設置して皆様の交流の場を用意しております。是非近況や小さな気づき、合唱以外のことで何でも書き込んでいただけたらと思います。

上智大学グリークラブホームページ

<http://www.sophia-gee.com/>

ホームページのほか、現役及びOB対象のメーリングリストを運営中です。メーリングリストに登録希望の方は、卒年・お名前・登録アドレスを明記の上、以下のアドレスにご返信ください。

上智大学グリークラブOB、現役部員対象のメーリングリスト

info@sophia-gee.com

※この度、トライアルとしまして本OB会ニュースの電子版を名簿等にて管理している皆様のメールアドレスに送付させて頂く予定です。（送付時期、形式は検討中です。）ペーパーレス化に伴う印刷／郵送コスト抑制によって増加したOB会資金につきましては、他のOB会活動費用として有効に活用させて頂く所存でございます。

今後、電子版のみをご希望される方は、OB会ニュース発送メールの返信または、上記メールアドレスまたは田中立夫（S.35卒）（tanaka@aoyoko.ch）までご連絡をお願い致します。ご理解、ご協力の程お願い致します。

（編集） 広報 小倉 充朗（平成8年卒）